

認定特定非営利活動法人JUONNETWORK(樹恩ネットワーク)

JUONは、大学生協の呼びかけで1998年に設立された、都市と農山漁村を結ぶために活動しているNPO法人です。大学生協が、廃校を再活用したセミナーハウスの運営や、阪神淡路大震災での支援活動の中で、農山漁村に住む人と出会ったことがきっかけで設立されました。「農山漁村と都市を結びながら森林・土・風土と私たちのつながりを取り戻そう」をコンセプトにさまざまな活動を行っています。

農山漁村と都市を結び、森林・土・風土と私たちのつながりを取り戻す

もりがっこう 森林の楽校

日本の森林の問題を、頭ではなく体で感じたい人のための森づくり体験プログラムが「森林の楽校」です。「森林の楽校」は、森林ボランティア活動のはじめの一步として気軽に参加することができ、森づくり体験・自然散策や地元の方々との交流などを通じて、森林・環境問題について学ぶことができます。全国14箇所で開催しており、それぞれに個性があるので、自分にあった森林の楽校を選ぶことができます。

森林ボランティア青年リーダー養成講座

継続的に森林ボランティア活動に参加する若いリーダーを育てることを目的に、1998年から東京で始まりました。名前の通り、若い人の参加が多いことが特徴です。というのも、原則18歳から40歳までを対象にしているからです。リーダー講座では一から森林での作業を学ぶことができますが、チェーンソーなどの機械を使った作業は基本的には行いません。その狙いは効率のよい森林作業を学ぶのではなく、昔行われていた方法で作業を行うことで、昔ながらの文化を学んでもらうためです。年に一期講座を開催しており、講座は全5回で構成されています。



「鳩ノ巣 森林の楽校」での間伐の様子(東京都奥多摩町)



人手不足の農家を応援する「援農」の入口「田畑(はたけ)の楽校」(山梨県山梨市)



リーダー講座での間伐作業(東京都奥多摩町)

認定特定非営利活動法人 JUON NETWORK

●活動目的

都市と農山漁村の人々をネットワークで結ぶことにより環境の保全改良、地方文化の発掘と普及、過疎過密の問題の解決に取り組み、自立・協力の志で新しい価値観と生活様式を創造していくことを目的とする。

●事業の3本柱

- ・都市と農山漁村の交流、森林・田畑の保全
- ・ボランティア人材育成
- ・国産品・地産地消の推進

●事務局

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22
大学生協杉並会館5F
Tel.03-5307-1102 Fax.03-5307-1091
E-mail:juon-office@univcoop.or.jp

●ホームページ

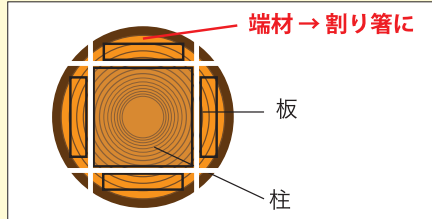
<http://juon.univcoop.or.jp/>



樹恩割り箸製造工場での割り箸選別作業
(徳島県三好市)



ヤングジュオン定例活動での真夏の下刈り作業
(東京都奥多摩町)



樹恩割り箸



「鳩ノ巣 森林の楽校」での道づくりの様子
(東京都奥多摩町)

樹恩割り箸

「割り箸はもったいない！」と考える方もいらっしゃると思います。しかし割り箸は本来、木を有効利用するために生まれたものです。一般に丸太を材木に伐り出す時、「端材」と呼ばれる半月型の部分が残ってしまいます。その端材を無駄にせずうまく利用して国産材割り箸の多くは作られています。

樹恩割り箸は「日本の森林を守るために間伐材・国産材を使うこと、障がい者の仕事づくりに貢献すること、食堂の排水を減らすこと」を目的に誕生しました。現在全国6箇所、障がい者施設で割り箸製造が行われ、75の大学生協、200を超える店舗で使われています。

樹恩割り箸はスギ・ヒノキのみを使った、国産材100%の割り箸です。初めて樹恩割り箸を使う方には「においをかいでぐらん」と勧め、木のいい香りを体感してもらっています。

なげなく樹恩割り箸を手にとって使ってもらうことで、日本の森林の問題に目を向けるきっかけになるという効果も期待できます。

ヤングジュオン定例

リーダー講座を修了した受講生はヤングジュオン(YJ)と呼ばれます。ヤングジュオンは森林ボランティア活動や地域でのイベントの参加など、継続的にさまざまな活動を行っています。森林ボランティア活動として、東京ヤングジュオンは東京都奥多摩町、関西ヤングジュオンは京都府亀岡市・兵庫県宍粟市を中心月に1〜2回のペースで定例活動を行っています。

リーダー講座では冬に作業をしますが、ヤングジュオン定例活動では春夏秋冬それぞれの景色を楽しみながら、季節に合わせた作業を行います。主に夏は下刈り、冬は間伐・枝打ち・道づくりをします。

ます。東京では今年度で第16期、関西では第8期を数えました。この講座の魅力は、単に森林作業をすることだけではありません。地元の方と参加者、または参加者同士のつながりが魅力のひとつになっています。この講座の参加者は大学生から社会人まで幅広い層の人が参加します。森林・林業問題に関心がある人が参加していますが、普段は林学とは全く関係ないことを学んでいる大学生や、都心で働く会社員など、単に自然が好きだという参加者も多くいます。参加者と話すのが楽しみで毎回ワクワクしながら講座に来る人、講座をきっかけとして新たな挑戦をする人などさまざまです。